

- 問1 北海道の北東側に位置する海域では、冬季になるとシベリア沿岸から流れてきた氷が接岸し、一面が白く覆われる光景が見られます。この海域の名称と、押し寄せる氷の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. 太平洋 ― 樹氷 2. 日本海 ― 流氷 3. オホーツク海 ― 流氷 4. オホーツク海 ― 樹氷
- 問2 北海道で生産される生乳の統計において、生産量の半分以上が飲用ではなくバターやチーズの原料となる加工用として利用されている主な理由を選びなさい。 (2019年 静岡県公立入試 類似)
1. 北海道の気候は夏に気温が上がりすぎるため、生乳の鮮度を保ったまま道外へ輸送することが技術的に不可能であるため。 2. 地産地消の考えに基づき、北海道内で生産された生乳は道内での飲用分を除き、すべて加工品にしてから輸出する義務があるため。 3. 関東などの大消費地から遠いという地理的条件があり、鮮度が求められる飲用よりも保存の利く乳製品への加工が適しているため。 4. 大規模な畑作と組み合わせた混合農業が盛んであり、生乳をそのまま出荷するよりも肥料として活用する割合が高いから。
- 問3 北海道東部に突き出した半島に位置し、海と陸のつながりによる独特の生態系が評価され、2005年にユネスコの世界遺産（自然遺産）に登録された場所はどこですか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
1. 小笠原諸島 2. 屋久島 3. 白神山地 4. 知床
- 問4 北海道最大の稲作地帯である石狩平野について、農業開発の歴史的な背景や工夫を説明した文として最も適切なものを、次のうちから選びなさい。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 冷害を避けるため、石狩川の水を大規模な温水ため池で温めてから田に引く工夫がなされた。 2. 浅い海や湖を堤防で囲んで排水し、広大な干拓地を造成することで米の生産量を増やした。 3. 火山灰地で水はけが良すぎるため、粘土質の土を混ぜて保水力を高める工事を全域で行った。 4. 水分を多く含む農業に不向きな泥炭地を改良するため、他から土を運び入れる客土が行われた。
- 問5 夏の北海道東部の太平洋沿岸では、濃霧（海霧）が発生しやすいため、8月の日照時間が約127時間にとどまる釧路のように、札幌（約171時間）と比較して日差しが遮られる傾向があります。この濃霧を発生させる要因となる、北海道の東側を南下する寒流の名称を次の中から選びなさい。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
1. リマン海流 2. 対馬海流 3. 千島海流（親潮） 4. 日本海流（黒潮）
- 問6 日本の都道府県別の統計において、空港の数が14か所と全国で最も多く、新幹線の駅の数が2か所設置されている都道府県があります。この地域において、これほど多くの空港が設置されている地理的な理由として最も適切なものはどれですか。 (2021年 岩手県公立入試 類似)
1. 険しい山脈が中央部を走っているため鉄道や道路の建設が難しく、空路が唯一の移動手段となっているため 2. 四方を海に囲まれた島国のような環境であり、本州との往来には航空機を利用する以外の方法がないため 3. 世界遺産の登録数が国内で最も多く、海外からの観光客を各地の観光地へ直接送客する必要があるため 4. 日本の国土の約2割を占める広大な面積を持ち、道内の主要都市間を効率的に結ぶ交通手段が必要であるため
- 問7 北海道の産業構造の特徴について、市町村別の就業者割合をまとめた資料によると、道東や道南の広い範囲を含め、多くの地域で共通して高い水準にある産業分類があります。商業や観光業、医療・福祉といったサービス業を含むこの産業分類として、正しい名称を選びなさい。 (2026年 三重県公立入試 類似)
1. 先端技術や情報通信を主体とする第四次産業 2. 製造業や建設業を主体とする第二次産業 3. 商業やサービス業を主体とする第三次産業 4. 農林水産業を主体とする第一次産業
- 問8 日本の乳牛飼育において、飲用として出荷される牛乳の生産地が、千葉県、神奈川県、愛知県といった大都市の周辺に多く見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。 2. 法律によって、飲用牛乳は消費地と同じ地方自治体の中で生産・処理しなければならないと定められている。 3. 飲用牛乳は加工用生乳に比べて重量が軽く、輸送コストがほとんどかからないため、あえて都市部で生産されている。 4. 大都市の周辺は北海道に比べて土地代が安く、乳牛を放牧するための広大な土地を確保しやすい環境にある。
- 問9 北海道の観光資源の統計を見ると、自然景観やレクリエーション施設の数が非常に多い一方で、古い歴史的建造物の数は京都府などと比べて少ないという特色があります。このような観光構造が形成された歴史的・地理的背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 自然遺産の保護を最優先する法律によって、歴史的な建造物を新しく重要文化財に指定することが制限されている。 2. 戦災によって歴史的な建造物の大部分が消失したため、戦後の復興期にレクリエーション施設を重点的に整備した。 3. 古くから日本の政治・文化の中心地であったが、木造建築よりも石造りの自然公園を重視する独自の文化が育まれた。 4. 明治時代以降に大規模な開拓が進められたため、古い寺院などの建造物は少ないが、広大な自然環境が観光資源として活用されている。
- 問10 面積が約83,424平方キロメートルと都道府県で最大であり、多くの外国人観光客も訪れる北海道において、2005年に世界自然遺産に登録された半島はどこか。周辺にはラムサール条約に登録された湿原も存在し、豊かな生態系が守られている。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 知床半島 2. 下北半島 3. 根室半島 4. 積丹半島
- 問11 北海道の東部、釧路から中標津にかけて広がる、数十キロにわたって牧草地や牧場が続く大規模な農業地域を何といいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 根釧台地 2. 十勝平野 3. 石狩平野 4. 上川盆地
- 問12 北海道の太平洋側で夏に発生する濃霧は、周辺の気候や産業に大きな影響を与えます。この霧が発生する一因となっている、北から南下してくる寒流の名称として正しいものを選びなさい。 (2026年 島根県公立入試 類似)
1. 黒潮 2. 日本海流 3. 親潮 4. 対馬海流
- 問13 北海道地方の気候の特色について、6月から7月にかけての状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 停滞前線が長期間にわたって停滞するため、年間で最も降水量が多い時期となる。 2. 北東から吹く冷たい風（ヤマセ）の影響で、この時期だけ急激に降水量が増加する。 3. 南東から吹き込む湿った季節風の影響により、本州よりも早く本格的な雨期が訪れる。 4. 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期がはっきりしない。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 オホーツク海 ― 流氷	北海道の北東部に面するオホーツク海では、冬になるとアムール川河口付近で凍った海水が風や海流に乗って南下し、流氷となって海岸に到達します。これに対し、日本海側は対馬海流（暖流）の影響を受けるため流氷は見られず、樹氷は山地の樹木に水分が凍り付く現象を指します。
問2	答え 3 関東などの大消費地から遠いという地理的条件があり、鮮度が求められる飲用よりも保存の利く乳製品への加工が適しているため。	北海道の酪農は、根釧台地などを中心に日本最大の生乳生産量を誇ります。しかし、主な消費地である関東や関西などの都市部から物理的に距離があるため、鮮度が重視される飲用牛乳としてすべてを供給するには輸送コストや時間の制約が生じます。そのため、保存性が高く、長距離輸送にも適したバターやチーズといった乳製品の原料（加工用生乳）としての利用が大きな割合を占めています。
問3	答え 4 知床	北海道東部にある知床半島は、冬に流れ着く流氷がもたらすプランクトンを起点として、魚類、鳥類、そしてヒグマなどの大型哺乳類までが密接に関わる豊かな生態系を持っています。この貴重な自然環境が認められ、日本では3番目の世界自然遺産として登録されました。
問4	答え 4 水分を多く含み農業に不向きな泥炭地を改良するため、他から土を運び入れる客土が行われた。	石狩平野の大部分は、寒冷な気候により植物の分解が進まずに積み重なった「泥炭地」でした。この土地は米作りに必要な温度を保ちにくく、また地盤も軟弱でしたが、明治時代以降、他の土地から質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった大規模な土地改良が続けられました。この努力に加え、寒さに強い品種改良が進んだことで、北海道は日本有数の米どころとなりました。火山灰地の改良（客土）は主に十勝平野などで見られる特徴です。
問5	答え 3 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。
問6	答え 4 日本の国土の約2割を占める広大な面積を持ち、道内の主要都市間を効率的に結ぶ交通手段が必要であるため	北海道は日本の総面積の約22%を占めるほど広大であり、札幌や函館、旭川、釧路といった主要都市間の距離が非常に離れています。そのため、移動時間を短縮し、迅速な物流や人流を確保するために、道内各地に多くの空港が整備されました。また、2016年には北海道新幹線が開通したことで、現在は空路だけでなく、新幹線による陸路での本州との接続も強化されています。
問7	答え 3 商業やサービス業を主体とする第三次産業	北海道は大規模な農業が盛んなイメージがありますが、実際の就業者数の構成比を見ると、他の都府県と同様に商業や観光業、サービス業などの第三次産業に従事する人の割合が最も高くなっています。特に道東や道南などの地域においても、豊かな自然資源を活かした観光業や、地域住民の生活を支えるサービス業が産業の主体的存在となっているため、広い範囲でこの割合が高くなっています。
問8	答え 1 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。	生乳の生産と流通には、製品の性質に応じた明確な特徴がある。牛乳（飲用）は液体であり、品質を維持するために鮮度が極めて重要視される。そのため、輸送時間を短縮できる大消費地の近郊で生産・処理される傾向が強い。一方、バターやチーズなどの原料となる加工用生乳は、広大な土地を持つ北海道が生産の約9割を占めている。加工品は飲用牛乳に比べて保存性が高く、遠方からの輸送にも適しているため、土地条件の有利な北海道での大規模生産が可能となっている。
問9	答え 4 明治時代以降に大規模な開拓が進められたため、古い寺院などの建造物は少ないが、広大な自然環境が観光資源として活用されている。	北海道の観光の特色は、歴史の長さよりも「広大さ」と「自然」にあります。本州の多くの地域とは異なり、近代以降の開拓によって社会基盤が作られたため、近世以前の重要文化財は相対的に少なくなります。しかし、その分、大規模な国立公園や大規模な土地利用を前提としたレクリエーション施設が充実しており、自然を目的とした観光客を多く集めています。
問10	答え 1 知床半島	北海道の北東部に位置する知床半島は、流氷がもたらすプランクトンを起点とした海と陸の豊かな食物連鎖が評価され、世界自然遺産に登録されました。また、北海道には釧路湿原などラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録された湿地が数多く存在します。
問11	答え 1 根釧台地	釧路と根室の間に広がるこの地域は、火山灰土が分布していることや、夏の気温が上がりにくい気候特性から、耕作よりも家畜の飼料となる牧草の生育に適しています。そのため、広大な土地を利用した大規模な酪農が発達しました。十勝平野は畑作、石狩平野や上川盆地は稲作が盛んな地域であり、それぞれ農業の特色が異なります。
問12	答え 3 親潮	北海道の東方沖を北から南へと流れる寒流は「親潮（千島海流）」です。夏に太平洋から吹く湿った季節風がこの冷たい親潮の上を通過することで、水蒸気が冷やされて霧が発生します。一方、黒潮（日本海流）は日本の南岸を北上する暖流であり、この霧の発生原因とは異なります。
問13	答え 4 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期がはっきりしない。	北海道は地理的に緯度が高く、本州以南に長雨をもたらす梅雨前線（停滞前線）が北上してくる頃には勢力が弱まったり、消滅したりすることが多いため、明確な「梅雨」が存在しません。これは北海道の大きな気候の特色の一つであり、この時期の降水量が本州に比べて少ないことは、観光や農業における利点となることもあります。